



シンガポール観光客が書道体験♪
師範は“黒松内イチのプレイボーイ”が担ってくれました

【新任のご挨拶】

皆さま、こんにちは。この度、新たに事務局長に就任しました河又健尚（かわまた たけひさ）と申します。日頃より、協会の活動にご支援・ご協力ください、ありがとうございます。

この4月に地域活性化起業人として観光協会に着任してから、早3ヶ月。初めての北海道生活にいまだ戸惑うことが多いですが、同居する家内ともども日々の新たな発見にワクワクし、未知の驚きにドキドキしながら、黒松内での新しい暮らしを楽しんでいます。

ここ観光協会での仕事は、私がこれまでに経験してきたエアライン営業の世界とも異なり、自身にとっては新たなチャレンジとなります。と同時に「観光」という切り口から黒松内町の発展や活性化に貢献できる機会をいただけたことを大変うれしく思っています。

これまで長年にわたって事務方を支えてくれた本間さんが勇退され、事務局としての体制も大きな転換期を迎えることとなります。まずは“安定した事務局運営”を最優先に計画されたアクションを着実に実行しながら、秋口以降からは将来を見据えた新たな取り組み等にも徐々に着手してまいりたいと思います。

事務局スタッフ一同、気持ちを新たに、さらに町を盛り上げていくべく張り切ってまいりますので、会員の皆さんにおかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

～略歴～
1970年生まれ 栃木県日光市出身。
1992年ANAグループに入社。東京を中心に名古屋、福岡にて勤務経験あり。北海道で勤務するのは初めてです。これまでに担当した業務は、海外パッケージツアーの企画・手配・営業、お客様相談室、海外旅行商品の品質管理、ガイド教育、北京オリンピックプロジェクト、グループ広報、国内団体航空券手配など
特技は、ムーンウォークです。



7月の観光協会の主な事業
ふるさと応援特産品宅配事業

【ご挨拶①】

6月から事務局長に就任した川又健尚氏とは一体どのような人物なのか？
ついにベールを脱ぎ自己紹介します！

【事業レポート】

5月に開催した黒松内岳山開き。
参加者総勢39名が山頂を目指しましたが、果たして無事に楽しめたのでしょうか！？

【ご挨拶②】

4月から経理に就任した遊佐智志氏とは？
ついに沈黙を破り自己紹介をします！

【新店舗紹介】

4月25日にリニューアルオープンした「ラーメン松龍」。
前店主・片岡歌子さんに代わり誰が営み、どんな思いでどんなメニューを出しているのか！？突撃取材を敢行しました！

【じり通信No.32】文：山本竜也

地方史の研究に日々勤しんでいる筆者が給料まで引き込んで何かを研究する人々、在野研究者。たちに地方史への想いを尋ね、まとめた書籍を発刊するといいます

【ご挨拶③】

6月で退職した本間崇文前事務局長。
最後に彼は何を語るのでしょうか！？
このあとすぐ！！

協会主催・協力イベント

ふるさと応援特産品宅配事業

7/8(日)販売開始

物価高騰などにより、売り上げが減少している町内の特産品販売事業者を応援するため、町内在住の皆さまがお得な価格帯で町の特産品を町外在住者に送ることが出来る事業を今年も実施します。お申し込みはお早めに！

ビーフ天国 7/27(土)

今年は1日だけの開催となるビーフ天国。各団体が出店しお祭りを盛り上げる中、観光協会も“あるモノ”で出店いたします。
何かは当日のお楽しみに～♪

事業レポート

<黒松内岳山開き>

5月26日土曜日。晴れ時々曇り、最高気温20度。

参加者27名、スタッフ・関係者12名、計39名の登山者には絶好の天候でした。

今回もノースランドの辻野健治さん・治子さんにガイディングしていただき約740mの山頂を目指しました。

山道から見えるブナの結実の多さに驚きつつ、8合目からは高山植物があちこちにお目見えとなり、中でもフギレオオバキスミレのかわいらしさに多くの方が見とれていました。

また、ロープ場ではスタッフたちの「鉄壁の守備(笑)」もあり登頂から下山まで誰一人ケガをせず終えることができました。

今回もお申込み期限前に定員に達し、残念ながらご参加できなかった方は来年も行う予定ですのでよろしくお願いいたします。

そしてご参加された皆様、大変お疲れさまでした！またお会いできることを楽しみにしております。

(事務局・古本)



ご挨拶②

ビリビリ（沈黙が破れる音）

4月から観光協会の仲間入りをした遊佐智志(ゆさ さとし)です。

書くのも読むのも疲れるのでさらっと自己紹介です！

名前：遊佐智志(38) 出身：札幌 誕生日：8/20(プレゼント大歓迎)

身長：1740mm 体重：0.08トナ 血液型：O型

すき：バイクツーリング、買い物(無駄多め) きらい：道路上に飛び出す方々(主に鹿と虫)

どんな人？

- ・井戸を掘ったり、魚の調査したり、プログラマーなんかしていました
- ・外遊び(最近はバイクばかり)すきです
- ・のほほんとしてるけどたまに毒を吐くとよく言われます(毒霧的なものではない)
- ・白髪多め頭の形悪いの合わせ技でハゲに見える場所がある(まだハゲてない！)

最近困っていること

- ・髪の毛以外のところも白いの増えてきた問題
- ・一人暮らし、飯食いすぎ問題(半端に残す位ならと全部食べがち)
- ・黒松内町佐藤さん多すぎ問題
- ・1週間で袋いっぱいになるほどゴミが出ないので家にゴミたまりがちな件
ぶっちゃけ分別めんど(自主規制)

皆さんに向けて一言

★ハゲない程度に適度に頑張るのでよろしくどうぞ★



じり通信No.32

『地方史のつむぎ方』を発刊

大学の教員や博物館の学芸員が研究するのは当たり前だ。それが仕事なのだから。ところが、給料をもらえるわけでもないのに、いや、大事な給料までつぎこんで、何かを研究する人々がいる。在野研究者という名で、近年、認知度が上がってきたが、昔もいた。地方史はとくに在野研究者によって発展してきた分野である。

何が彼らをそこまで駆り立てるのか。2022年1月から2023年4月にかけて、道内外各地に出掛けては、地方史研究に取り組む人たちに話を聞いた。たとえば、余市の見野久幸さんは、高校教員のかたわら、北海道方言を調べてきた。休みの日になれば、アンケート調査を持ってバスに乗り、集落の一軒一軒を訪ねて、回答を集めめた。研究成果はおもに自費出版で発表した。その原動力は、言葉に対する好奇心である。

ほかにも、地図、女性、空襲、鉄道、砂金など、さまざまな分野の在野研究者に会った。大学教員や学芸員には、プロの研究者ならではの視点を尋ねた。そして、この1月、新刊『地方史のつむぎ方 北海道を中心に』を発刊した。私を含めると25人が地方史への想いを語っている。歴史に興味があるならば、読んでほしい。損はさせない。

460ページ、尚学社発行、3740円（税込）。道内主要書店やAmazon、メルカリなどで取り扱い中。



地方史のつむぎ方

北海道を中心

山本竜也
YAMAMOTO TATSUYA

今風にいうと“推し活”ですね。それぞれの“推し”にかける熱量はすごいものがありますよね。黒松内ならやっぱりブナ推しだすね！皆さんは推したいものありますか？（事務局・遊佐）

新店舗紹介！

祝！！ 松龍営業再開！

黒松内町で唯一のラーメン屋でした松龍が24年4月に片岡一磨(かたおか かずま)さんと奥さんの美絃(みふゆ)さんの手で営業の再開を果たし、早速にぎわいを見せている中、お話を伺ってきました。

Q. 松龍を継ごうと思ったきっかけは？

一磨：昨年4月におじいちゃんが病気となった影響で、おばあちゃんが千歳市へ移住した事がきっかけでした。お店や家はおじいちゃんが建てたもので、その中でラーメンを残す事が二人の生きた証だと思っているので、それらを守っていきたいという想いがありました。

Q. ラーメンを作るにあたってこだわった事は？

一磨：いわゆる二郎系ラーメンとしたのは、町の若い人に来てもらいたいという思いからです。麺大盛りと野菜マシは見た目のインパクトがあり、周りから「すごい！」、「何あれ？」と楽しんでもらえるようにしています。

美絃：呪文みたいに「野菜マシ、あぶらマシ」と言ってもらえるのがこちらとしても楽しいです！

Q. 休日の楽しみ方は？

一磨：二人で島牧の海へ行き、ヤドカリやカニを眺めるのが楽しいです。

美絃：自分好みの形の石を探すのも楽しいね。

Q. これからやっていきたい事は？

一磨：今は現状で手一杯ですが、時間に余裕があればラーメンの幅を持たせたいと思っています。例えば、味の種類を増やし有料のトッピングを作ることで各々が自分好みのラーメンを作って召し上がってもらいたいです。



マスク越しからでも分かる素敵な笑顔の一磨さんと、美絃さん。今後も黒松内町を盛り上げてください！写真のラーメンとチャーハンは撮影後美味しいいただきました！
(事務局・岡本)

主なメニュー(すべて税込)

- ・ラーメン(しょうゆ味) : ¥1000
- ・チャーハン : ¥500
- ・半チャーハン : ¥350

<ヤマメ釣り解禁（6月1日土曜日）>

黒松内町を流れる朱太川水系にてヤマメ釣りが解禁されました。

この時を今か今かと待ちわびていたのは釣り人だけではありません！当協会でも「手ぶらで渓流釣り体験」やインバウンドの受け入れで渓流釣り体験を行っているため、私どもも待望の日でした。初日から小学5年生を連れたお父さんが釣り体験をお申込みされ、朝9時30分から釣り場へ向かったのですが、土曜日ということもありどこも先行者が入っている大盛況ぶり。こんなこともあろうかと前々日から川の下見をしていたため、穴場スポットへと連れていいくことができ、親子さんには楽しんでいただけました。



親子さんはその後キャンプ場ルピックに宿泊し、晩御飯のおかずの一つに自分たちで釣ったヤマメの塩焼きを食べられたそうです。思い出作りの一端を担うことができ幸いです。（事務局・古本）

ご挨拶③**退職のご挨拶**

皆様、いつもお世話になっております、事務局の本間崇文です。

私事ではありますが、6月30日をもって定年退職することとなりました。観光協会に在職してから9年、前職のグリーンツーリズム・コーディネーターを含めますと黒松内には12年3ヶ月在住したことになります。今思い返すとあっという間に月日が過ぎてしまった。また、糸余曲折色々なことがあったなという感じがします。一方で、黒松内低地帯の自然を謳歌しながら、ゆったりとした時間を過ごすことができました。

観光協会での経験を一言で言い表すことは難しいのですが、12年間の成果として外国人観光客の受け入れを中心に体験交流型観光が地域に浸透してきたことを思い起します。しかし、新型コロナウィルス感染症の影響で外国人観光客が全く集客できない時期が複数年続き、協会運営が大変困難な時期もありました。そんな厳しい状況下では、会長をはじめ役員、会員の皆様、町長をはじめ役場職員の皆さまのご支援や事務局職員の努力もあり、難題を乗り超えることができました。多くの皆様のお力添えにより、貴重な経験を積むことができたことは私にとってかけがえのない財産です。

9月には和歌山県田辺市の熊野古道を拠点に、新たな挑戦をはじめたいと考えています。紀伊半島から北海道、そして黒松内へとインバウンドのお客様を送客できるよう尽力して参りますので、今後とも変わらぬお付き合いの程よろしくお願いします。



長い間観光協会の力になっていただき本当にありがとうございました。
新天地での活躍そして、送客！事務局一同とても期待しております！(笑)

そして気づきました！親指長いですね！(事務局:遊佐)

観光協会HPにて[B2]バックナンバーがご覧になれます。

www.bunasatotourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡ください。